

科目名	グローバルインターンシップ	英文表記	Global Internship	2017/3/10			
科目コード	6022						
教員名:【電子通信】兼城千波				作成			
技術職員名:							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数			
全コース	1	選	学修	2単位			
授業形態	授業期間						
実習	通年						
科目目標【MCC目標】	① 海外での研修(企業・語学研修など)を通じて実践的な技術・語学力を身につける。 ② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 ③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。 <b>【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる</b> <b>【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる</b> <b>【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる</b>						
総合評価	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% <b>履修に必要な書類:</b> 受入許可書および日程表(この提出をもって履修許可とする)、日報、派遣先からの評価書、報告書(様式任意)、報告書(学校様式2)、発表会資料、履修願						
科目達成度目標	目標割合	科目達成度目標	達成度目標の評価方法	ルーブリック			
	40%	① 海外での研修(企業・語学研修など)を通じて実践的な技術・語学力を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	理想的な到達レベル(優) 実務経験を通し、その内容を理解し、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につけ、自らのキャリアデザインにつなげることができる			
	30%	② 異文化理解に必要な基礎的な素養・協調性・能力・価値観を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	標準的な到達レベル(良) 実務経験を通し、その内容を理解し、職業意識を向上させることができる			
	30%	③ 海外での研究・学習を通して、グローバルな視点で物事を考え、研究を遂行できる能力を身につける。	① 研修中の日誌と報告書 50% ② 研修先の評価レポート 20% ③ 研修後の報告書およびプレゼンテーション 30% で評価する	最低限必要な到達レベル(可) 研修内容を理解し、日報や報告書に記述することができる(指示された通りに行動し、指示された提出物を期日厳守で提出する)			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
	○		◎				
<b>評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合</b>							
評価項目	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(講習履修・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
基礎的理解	①②③	0	0	100	0	100	
応用力(実践・専門・融合)	①②③			25		25	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)	①②③			25		25	
主体的・継続的学修意欲	①②③			25		25	
授業概要、方針、履修上の注意	<b>【概要】</b> 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会に必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。 <b>1.</b> 履修を希望する学生は、各コース科目担当教員の指導を受け、授業計画に基づいて、インターンシップを実施する。 <b>2.</b> 実際の現場で長期にわたって業務を体験することで、実践的な技術を理解する。 <b>3.</b> 長期間にわたる実務経験を通して、職業意識を向上させ、実社会に必要な素養・協調性・能力・価値観を身につける。 <b>4.</b> 学校教育と就業体験の結合により、より高い職業意識を育成し、自主性・創造性溢れる専門性高い人材生成を目指す。 <b>5.</b> 習得した専門知識を生かし、学外における実務研修により、実社会に必要な要素・能力(企画力、計画性、実行力、労働・契約の意義、コミュニケーション能力、情報管理など)を実践レベルで身につける。						
教科書・教材	教員作成資料、企業作成資料						

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1	講義内容説明・ガイダンス	1	インターンシップの意義と講義の進め方についてガイダンス		
2	インターンシップ先企業研究	9	企業研究、大学受け入れ先検討	企業・大学の調査	
3	インターンシップ	160	約2-4週間の企業研修・大学での研究		
4			①企業における多様性を理解し、自らの進路としてキャリアデザインを構築することができる		
5			②企業における社会的責任を理解できる		
6			③企業活動が国内外の他社との関係性を理解できる 【6-3-3 VII-C】自らの主体性や意欲の向上から、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を持つことができる 【6-3-3 VII-C】品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる 【6-3-3 VII-C】チームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる	研修研究内容の自己研究	
7	成果報告まとめ	10	インターンシップ報告書の作成・報告会資料作成・報告	資料作成・プレゼンテーション	
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末	期末試験	[2]			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23	後期中間試験(行事予定で変更可)				
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		180	実時間	135	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
① 企業内研修・大学研究での課題レポート				各2時間×5回	
② 課題発表(テーマに沿った課題について調べ、発表資料を作り、発表する。)				各2時間×5回	
③					
				計20時間	
(各科目個別記述)					
・ この科目の主たる関連科目は情報通信システム工学科科目関連図一覧表を参照のこと。					
(モデルコアカリキュラム)					
・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。					
(航空技術者プログラム)					
・ 【航】は航空技術者プログラムの対応項目であることを意味する。					
(学位審査基準の要件による分類・適用)					
科目区分 関連科目 工学及び周辺技術等に関する科目					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)